映画をもっと深く楽しむために

# 映画の國
エイガノクニ

¥0 TAKE FREE!

Nov.2008 n.01

## CONTENTS

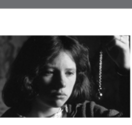

- 【対談】孤独であることの強さ ビクトル・エリセをめぐって（井口奈己×野谷文昭）
- 同時代を並走した二人の映画作家 テオ・アンゲロプロスと大島渚
- 毒婦と呼ばれた二人の女性（木全公彦）

［連載］
- ☆世界映画開拓（中原昌也）
- ☆映画の中のジャズ、ジャズの中の映画（上島春彦）
- ☆映画と本の話（遠山純生）
- ☆映画人が選ぶ映画史上の傑作 〜 第一回：エリック・ロメール 〜


## ［対談］孤独であることの強さ ― ビクトル・エリセをめぐって

井口奈己×野谷文昭

今年十二月下旬に紀伊國屋書店より発売予定の『ビクトル・エリセDVD BOX』は、エリセの処女作（日本未公開）を含む代表作を三本収録したファン待望のBOX。発売を機に、今年『人のセックスを笑うな』を発表して話題沸騰の映画監督・井口奈己氏と、小説版『エル・スール』の翻訳を手掛けたラテンアメリカ文学研究者・野谷文昭氏に、エリセ映画の魅力を存分に語っていただいた。



『エル・スール』

『ミツバチのささやき』

**野谷** 『ミツバチのささやき』の舞台はカスティーリャですが、北のスペイン人にとって、その荒野は、自分たちがアイデンティファイできる心象風景なんです。詩人たちもそれを詩にしてきたわけだけれど、それをエリセ監督は映像で観せたんですね。十九世紀末にアメリカに戦争で負けて最後の植民地を失ってショックを受けた詩人たちは、カスティーリャの荒野を見て、その力強さに癒やされるのだけれど、エリセの場合には、荒れ野のような冬の畑が美しいでしょう。叙事詩に対する叙情詩の美しさみたいな。その一方で、あの光景は、内戦の後の風景と重なるような感

**井口** アナは脱走兵をかくまう。夜に銃撃があって、朝行ったらいなくなっている。父親が来て放つ第一声がものすごく怒っていて、観ていてもびっくりしますね。「アナ」って言っているだけなのですけれど、怖い。

**野谷** 名前を言うだけですべてを恫喝してしまう。例えばフランケンシュタインの怪物にしてもそうですが、アナにとってはまだ善悪の対象じゃない。父親は既に善悪という形で、すべて世界を二分法的に切っている。イサベルはその中間で、どっちも見ている。善悪の中でも、父親と母親では価値観が違う。いくつも価値観があるような、そういう世界だと思います。一つの家の中で、それぞれがみんな違う価値観をもって生きている。

**野谷** アナであろうがエストレリャであろうが、みんな何か孤独を抱えている。その孤独は、本質的な孤独というような気がするんですね。例えばガルシア＝マルケスの『百年の孤独』の登場人物たちが孤独であるみたいな、そういう孤独です。つまり、肯定的な意味で

＊この対談は、「ビクトル・エリセBOX」特別付録のブックレットに掲載されたものから一部を抜粋再編集したものです。対談の全文は同ブックレットで読むことができます。

### ビクトル・エリセ Victor Erice

1940年6月30日、スペインのバスク地方で生まれ、その地の港湾都市サン・セバスティアンで育つ。高校卒業後マドリードに出てマドリード大学政治学部に入学、しかし60年には国立映画学校の前身、国立映画研究所にも入学する。学生時代から映画批評も手がけ、『ヌエストロ・シネ』誌などに寄稿している。63年にはアンチョン・エセイサ『次の秋』の脚本と助監督を担当した。69年、エリアス・ケレヘタ製作によるオムニバス映画『挑戦』の第三話を担当して映画監督デビューを果たす。作品はサン・セバスティアン国際映画祭の銀の貝殻賞を受賞。73年、ふたたびケレヘタと組んで『ミツバチのささやき』を完成、サン・セバスティアン国際映画祭で金の貝殻賞を受賞。これにより同作は、スペイン映画史上画期的な名作としての評判を得る。83年、みたびケレヘタと組んで『エル・スール』を監督。前作に劣らぬ高い評価を得た。日本でも85年に『ミツバチのささやき』と『エル・スール』が立て続けに紹介された。92年、画家アントニオ・ロペスが一瞬の光をキャンヴァスに閉じ込めようと苦悩する様子を撮った『マルメロの陽光』がカンヌ映画祭の審査員賞を受賞。「10年に一本の寡作監督」神話と共に、評価はますます高まった。2002年には、コンピレーション・フィルム『10ミニッツ・オールダー』に、短編『ライフライン』を提供。2006年、同い歳のイラン人映画監督アッバス・キアロスタミとのビデオ往復書簡によるインスタレーションを、バルセローナ現代文化センターとパリのポンピドゥー・センターで開催。ここに多くのビデオ書簡に加え、「ラ・モルト・ルージュ／独白」と題する短編を出品した。

### ビクトル・エリセ DVD-BOX（四枚組）

2008年12月26日発売予定

永遠の傑作『ミツバチのささやき』『エル・スール』が、エリセ自身の監修によるニューマスターにて、決定版DVD化。そして日本初登場の『挑戦』――。すべての映画ファン必携の『ビクトル・エリセ DVD-BOX』、遂に発売！

**BOX特典：**
BOX特典：特別ブックレット（全48頁）●対談「ビクトル・エリセの映画」（野谷文昭＆井口奈己）
●「エリセの聖なる映画」（野谷文昭）●劇場公開時の同時代評 1:「微熱少女の予感」（川本三郎）2:「魂の在所を啓示的に描く」（鈴木志郎康）●エッセイ「ビクトル・エリセの映画史」「スペインのこれは"父ありき"である」（淀川長治）

**収録作品：**

DISC―1

**『挑戦』** Los Desafíos

エリセ監督の監督デビュー作。当DVDにて日本初公開。アメリカ人とスペイン人の相克を主題にした、三話構成のオムニバス映画の第三話（第一話はクラウディオ・ゲリン監督、第二話はホセ・ルイス・エヘア監督）。エリセ編では、無人の村で、「自由な愛」を夢見た二組のカップルの、愛の破綻が描かれる。
監督：ビクトル・エリセ／脚本：ラファエル・アスコナ／撮影：ルイス・クワドラド／出演：ディーン・セルミア、デイシー・グラナドス、ルイス・スワレス（エリセ編のみ）
1969年／スペイン／カラー／100分／スペイン語モノラル／日本語字幕／ヴィスタサイズ／ドルビーデジタル
封入：解説リーフレット（執筆：柳原孝敦）

DISC―2&3

**『ミツバチのささやき』（二枚組）** El Espíritu de la colmena

「ソイ、アナ（私はアナよ）……」。巡回上映の映画で見た映画『フランケンシュタイン』の怪物を精霊と信じた少女アナは、村はずれの廃屋に精霊を探しに行く……。天才子役アナ・トレントの輝き。世界が驚愕し、惜しみない賞賛を送った、エリセ監督長編第一作。
監督：ビクトル・エリセ／脚本：アンヘル・フェルナンデス＝サントス、エリセ／撮影：ルイス・クワドラド／音楽：ルイス・デ・パブロ／出演：アナ・トレント、イサベル・テリェリア、フェルナンド・フェルナン・ゴメス
1973年／スペイン／カラー／99分／スペイン語モノラル／日本語字幕／ヴィスタサイズ／ドルビーデジタル
封入：解説リーフレット（執筆：柳原孝敦）

**特典ディスク：『精霊の足跡』**
『ミツバチのささやき』公開から25年後に、この映画を改めて振り返ったテレビ・ドキュメンタリー。監督や出演者たちが登場、当時を回想する、ファン必見の映像！

DISC―4

**『エル・スール』** El Sur

その朝、エストレリャの枕の下に、父の振り子がしのばされていた。内戦の記憶、父の過去。北の"かもめの家"に届く、スール――南――からの誘い……。名優オメロ・アントヌッティ主演。エリセ監督の名を不動のものとした、長編第二作。
監督・脚本：ビクトル・エリセ／原作：アデライダ・ガルシア・モラレス／撮影：ホセ・ルイス・アルカイネ／出演：オメロ・アントヌッティ、ソンソレス・アラングレン、イシアル・ボリャイン
1983年／スペイン＝フランス／カラー／95分／スペイン語モノラル／日本語字幕／ヴィスタサイズ／ドルビーデジタル封入：解説リーフレット（執筆：柳原孝敦）

発売・販売：紀伊國屋書店　価格：¥15,120（税抜：¥14,400）

## 同時代を並走した二人の映画作家 テオ・アンゲロプロスと大島渚

大島渚は一九三二年三月三一日生まれ。テオ・アンゲロプロスは一九三五年四月二七日生まれ。ほぼ同世代だと言って良い二人ですが、長編第一作を発表したのは大島が一九五九年、アンゲロプロスが一九七〇年と、約十年の開きがあります。しかしどちらも、世界にとっても映画にとっても激動の時代だったと言える一九六〇年代に、映画の世界に身を置いてこの二〇世紀芸術の可能性を追求していた点で、同時代の映画人なのだといえます。大島は映画監督として、アンゲロプロスはIDHEC（パリにある国立映画学院）の学生および映画批評家として六〇年代を通過した後、七〇年代以後は両者共に世界的な映画監督として斬新な作風の作品を発表してきたのも周知の通りです。

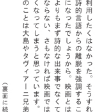
『1936年の日々』（72）公開後の七三年に行なわれたインタヴューで、アンゲロプロスは『1936年の

げたようなものをです」。アンゲロプロスは『1936年の日々』を作る前に『絞死刑』を観ていたのか？フランスで初めて本格的に紹介された大島作品（カンヌ映画祭招待作品）が『絞死刑』だった事実から見て、アンゲロプロスがこの作品を鑑賞していた可能性は考えられます。しかしたとえ観ていなかったとしても、歴史的・社会的問題を戯画化して語るやり方は、二人の映画作家が知らず知らず共有していた同時代的な下地だったのかもしれません。

また『アレクサンダー大王』（80）に言及して、アンゲロプロスはこう語っています。

「私は神話の形式を利用しなくてはなりませんでした。確実な事実を利用したくはなかった。そうすれば詩的言語からの離脱を強調することになったでしょうから。映画とは何よりもまず詩的な出来事でなくてはならない、さもなければ映画ではなくなってしまうと思っています。このことは大島やタヴィアーニ兄弟の

（裏面に続く）



『絞死刑』
©大島渚プロダクション

### 大島渚

……ヴァーグ」の旗手となる。しかし61年、安保闘争を背景にした作品『日本の夜と霧』(60)を、松竹が大島に無断で上映中止したことに抗議し、同社を退社。その後、同時に松竹を退社した妻の女優・小山明子や渡辺文雄、小松方正、戸浦六宏、大島の助監督でその後脚本家として活動する田村孟らと共に映画製作会社「創造社」を設立。その後、『白昼の通り魔』（66）、『忍者武芸帳』(67)、『絞死刑』(68)、『帰って来たヨッパライ』(68)、『新宿泥棒日記』(69)、『少年』(69)等を発表、国内外の認知度も高まったが、『夏の妹』(72)を最後に創造社は解散。その後は映画製作資金を稼ぐためにテレビ出演等を始める。過激な性描写が物議を醸した『愛のコリーダ』(76)により国際的な評価が定着してからは、『愛の亡霊』(78)、『戦場のメリークリスマス』(83)、『マックス、モン・アムール』(86)など外国資本もしくは海外配給を前提とする作品が中心となっていった。96年初頭に約10年ぶりの映画製作発表をして間もなく、渡航先のロンドンで脳出血に見舞われた。三年間のリハビリの後『御法度』(99) を発表。2001年にはフランス芸術文化勲章を受章。また、著作も多数発表している。

### テオ・アンゲロプロス全集 DVD-BOX「I」～「IV」

### エレニの旅

## 世界映画開拓（中原昌也）

## レ・ヴァンピール ―吸血ギャング団― BOX（三枚組）
クリティカル・エディション
LES VAMPIRES

発売・販売：紀伊國屋書店
価格：¥12,600（税抜：¥12,000）
発売日：2008年11月29日（土）

**特典映像収録作：**
**フイヤード短編映画集**
『糸紡ぎの伝説』
『全く申し分のない婦人』
『ブーブーミ』
『ローマの大饗宴』
『役者の目覚め』

<吸血鬼たち>を意味するレ・ヴァンピールと呼ばれるギャング団が出没する1910年代のパリ。ベル＝エポックの美しい都会で繰り広げられる、不思議な犯罪の大長編絵物語がここに甦る！

第一次世界大戦直前の時期にアメリカで流行し始めた連続映画は、ヒロインが悪漢に誘拐されたり、犯罪シンジケートに果敢に挑戦するヒーローが活躍したりするスリルとサスペンスを週替わりで展開させ、上映してゆくという、新たな映画の形を作った。

『レ・ヴァンピール』はこうしたアメリカ映画に対するフランスからの回答であり、挑戦でもあった。監督は、当時のゴーモン社の芸術監督でもあったルイ・フイヤード。

映画は全体で10部構成となっており、以下のような物語が展開してゆく。

パリの新聞社に勤務するフィリップ・ゲランドは、頻発する怪事件を捜査してゆく中で、これらの事件がヴァンピール一味によって仕組まれていることを知る。このギャング団のボスは大ヴァンピールと呼ばれており、変装して様々な人間に成りすまし、金品の強奪や殺人を繰り返す。ギャング団のミューズはイルマ・ヴェップという女性。彼女は黒い全身タイツを身にまとい、大ヴァンピールから受けた指令を遂行する。一方、ヴァンピール一味とは別に、モレノという催眠術を得意とする悪漢グループが似たような凶悪犯罪を展開させ、新聞記者フィリップ・ゲランドを取り巻く状況は、さながら不条理な悪の迷宮のような様相を呈してくる。

とりわけ注目されるのは、後にシュルレアリストによって絶賛される女優、イルマ・ヴェップを演ずるミュジドラの不思議な存在感。この映画はミュジドラの魅力を十分に生かしえた最初の作品であった。

『レ・ヴァンピール』は日本では大正6年（1917年）に『ドラルー』という題名で封切られたが、この日本公開版はイギリス向けに再編集された、全4篇構成の短縮版だった。本DVDはゴーモン社のアーカイヴに保存されていた「レ・ヴァンピール」のプリントから作成された完全版である。

監督・脚本：ルイ・フイヤード／出演：ミュジドラ、エデュアール・マテ、マルセル・レベスク
1915年／フランス／モノクロ／本編395分＋特典映像43分／伴奏音楽（ステレオ2ch）or 無声／日本語字幕／スタンダード／ドルビーデジタル
封入：解説リーフレット（執筆：小松弘／全48p）

## ルイス・ブニュエル DVD-BOX 6（三枚組）

**BOX特典：特別ブックレット**
「ルイス・ブニュエル」（シャルル・テッソン）
「ブニュエル講座第六回 前衛芸術篇」（福島勲）
「ブニュエルと『メサイヤ』 ルイス・ブニュエル への新しい接近」（四方田犬彦）
「『忘れられた人々』もう一つのエンディング」

発売：紀伊國屋書店、IMAGICA TV
販売：紀伊國屋書店
価格：¥15,120（税抜：¥14,400）

2008年12月26日発売予定

DISC―1

**『アンダルシアの犬』** Un Chien Andalou

ルイス・ブニュエルの監督デビュー作にして、サルバドール・ダリと脚本を共同で執筆した作品。確固としたストーリーはなく、ショッキングでシュールでグロテスクな場面が次々と連なってゆく。アヴァンギャルド映画の元祖にして最高峰。1960年にブニュエルの指示によってワーグナーほかの音楽が付けられたサウンド版。本編は英国のブリティッシュ・フィルム・インスティチュート（bfi）版DVDマスターを使用。

監督：ルイス・ブニュエル／脚本：ブニュエル、サルバドール・ダリ／撮影：アルベール・デュヴェルジェ／出演：シモーヌ・マルイユ、ピエール・バチェフ、ルイス・ブニュエル、サルバドール・ダリ
1929年／フランス／モノクロ／16分（PALマスター）／フランス語モノラル／日本語字幕／スタンダード／ドルビーデジタル

『ブニュエルの秘かな愉しみ』 A propósito de Buñuel

DISC―2 『忘れられた人々』 Los Olvidados

DISC―3 『若い娘』 The Young One

## 連載 映画の中のジャズ、ジャズの中の映画

上島春彦

第一回「遥かなるニューオリンズ」と伝説のジャズメン＆ウーマン

## DVD-BOX 大島渚 1（三枚組）

## 大島渚著作集 全四巻

## 毒婦と呼ばれた二人の女性

木全公彦

### 明治一代女

新東宝傑作セレクション

発売：スターライトフィルムズ
販売：紀伊國屋書店
価格：¥5,040（税抜：¥4,800）
発売日：2008年11月29日（土）

川口松太郎の原作を、伊藤大輔監督が豪華出演陣で描いた悲恋の物語。柳橋芸者・お梅は、若手歌舞伎役者・沢村仙枝と恋仲になっていた。そのため女将お秀からきつく当たられる日々を送っていたが、翌春に仙枝の襲名披露公演が行われることになる。自ら費用を捻出したいと思っていたお梅だが、資金はない。そこへ箱丁の巳之吉から、その費用を工面するから一緒に暮らしてくれと頼まれる……。

監督：伊藤大輔／原作：川口松太郎／脚色：成澤昌茂、伊藤大輔／撮影：鈴木博／音楽：伊福部昭／出演：木暮実千代、北上彌太郎、田崎潤、杉村春子、殿山泰司、浦辺粂子、高堂国典
1955年／日本／モノクロ／111分／日本語モノラル／字幕なし／スタンダード／ドルビーデジタル／
ハイビジョン・デジタルニューマスター
封入：解説リーフレット（執筆：木全公彦＋成澤昌茂インタヴュー／全36P）

### 毒婦高橋お伝

新東宝傑作セレクション

発売：スターライトフィルムズ
販売：紀伊國屋書店
価格：¥5,040（税抜：¥4,800）
発売日：2008年11月29日（土）

明治初頭を舞台に、数奇な運命を辿った女"高橋お伝"の半生を描く中川信夫監督作。主演の若杉嘉津子は、この作品を自身の代表作と語った。……

監督：中川信夫／脚本：仲津勝義、中澤信／撮影：河崎喜久三／音楽：渡辺宙明／出演：若杉嘉津子、丹波哲郎、中村彰、明智十三郎、舟橋元
1958年／日本／モノクロ／74分／日本語モノラル／字幕なし／スタンダード／ドルビーデジタル／
ハイビジョン・デジタルニューマスター
封入：解説リーフレット（執筆：木全公彦＋鈴木健介／全28P）

## 映画と本の話（遠山純生）

## 第一回 映画人が選ぶ映画史上の傑作 エリック・ロメール

## 映画雑感

次号は2008年12月中旬発行予定です。

2008年11月14日発行
発行：(株)スターライトフィルムズ
編集人：遠山純生
協力：(株)紀伊國屋書店
デザイン：ワイト堂

WEB版「映画の國」
http://eiganokuni.com/

本紙に掲載の記事・写真等の無断転載及び複写を禁じます。

### いのちの食べかた
OUR DAILY BREAD

「食」の不安は、「食」を知ることでしか解決できない！きっと、誰かに教えたくなる。食べ物があなたの食卓に並ぶまでの、驚くべき旅。

発売：新日本映画社
販売：紀伊國屋書店
価格：¥3,990（税抜：¥3,800）
発売日：2008年11月29日(土)

私たちの生とは切り離せない「食物」を産み出している現場の数々を描いたドキュメンタリー。世界中の人の食を担うため、野菜や果物だけでなく、家畜や魚でさえも大規模な機械化によって生産・管理せざるをえない現代社会の実情。唖然とするような光景の連続で驚かせつつ、私たちが生きていること、その意味の問い直しを迫る注目作！

監督・撮影：ニコラウス・ゲイハルター／編集：ウォルフガング・ヴィダーホーファー
2005年／オーストリア＝ドイツ／カラー／92分／ステレオ／日本語字幕／ヴィスタサイズ／ドルビーデジタル
特典：映画『いのちの食べかた』ガイド（玉村豊男、福岡伸一等 豪華執筆陣によるオフィシャルブック）

### トリコロール コレクターズBOX（三枚組）

『ふたりのベロニカ』『デカローグ』を生み出したポーランドの巨匠キェシロフスキ監督の遺作にして最高のトリロジー。フランスの国旗の三色をモチーフに、愛の形を描き出す。

発売：IMAGICA TV
販売：紀伊國屋書店
価格：¥12,600（税抜：¥12,000）
発売日：2008年11月29日（土）

**収録作品：**

**『トリコロール／青の愛』** TROIS COULEURS BLEU

事故で作曲家の夫と一人娘を亡くしたジュリーは、すべてを捨ててパリのアパルトマンの一室でひっそりと暮らし始める。しかし、夫が生前依頼され、未完となっていた欧州統合記念曲のメロディは、楽譜を破棄しても頭を離れることはなかった。そんなある日のこと、夫の協力者だったオリヴィエが、写譜屋が持っていた楽譜のコピーから曲を完成させると発表する……。

監督：クシシュトフ・キェシロフスキ／出演：ジュリエット・ビノシュ、ブノワ・レジャン、フロランス・ペルネル
1993年／フランス／カラー／99分／フランス語ステレオ／日本語字幕／ヴィスタサイズ／ドルビーデジタル／HDリマスター版

**『トリコロール／白の愛』** TROIS COULEURS BLANC

ポーランド人の美容師カロルは、性的不能を理由にフランス人の妻ドミニクに離婚を求める裁判を起こされる。言葉も通じない異国の地で、パスポートも取り上げられ、トランクひとつで寒空の下放り出されたカロルは、日銭のためにメトロの通路で故郷の音楽を奏でているとき、同郷のミコワイという男と知り合う……。
監督：クシシュトフ・キェシロフスキ／出演：ズビグニェフ・ザマホフスキ、ジュリー・デルピー、ヤヌシュ・ガヨス
1994年／フランス＝ポーランド／カラー／92分／フランス語・ポーランド語ステレオ／日本語字幕／ヴィスタサイズ／ドルビーデジタル／HDリマスター版

**『トリコロール／赤の愛』** TROIS COULEURS ROUGE

ジュネーヴに住むモデルのヴァランティーヌは、ある日車で犬を轢いてしまったことをきっかけに、その飼い主である初老の元判事と出会う。彼が他人の電話を盗聴していることを知ったヴァランティーヌは、卑劣だと非難するが、説得はできない。しかしその後、盗聴が密告されたという記事が新聞に載り……。
監督：クシシュトフ・キェシロフスキ／出演：イレーヌ・ジャコブ、ジャン＝ルイ・トランティニャン、フレデリック・フェデール
1994年／フランス＝ポーランド＝スイス／カラー／96分／フランス語ステレオ／日本語字幕／ヴィスタサイズ／ドルビーデジタル／HDリマスター版

**BOX特典**
■特典ディスク（計107分）監督インタヴュー／主演女優インタヴュー／予告篇 ■解説ブックレット（全32頁）

### 青年団 ソウル市民三部作BOX（三枚組）

発売・販売：紀伊國屋書店
価格：¥15,120（税抜：¥14,400）
発売日：2008年11月29日（土）